

## 議事録(会議-第2回)

計画名	整理番号
島田市子どもの貧困対策推進計画	No. 2
出席者	日 時
<b>【島田市子どもの貧困対策推進計画検討委員会委員】</b> 14名 永田委員（委員長）、石間委員、大塚委員、伊藤委員、高木委員、杉本委員、高橋委員、鈴木委員、岡部委員、菊池委員、池谷委員、平松委員、南條委員、駒形委員（順不同） <b>【事務局】</b> 2名 進士係長、林主査	平成30年10月2日(火) 15:15～16:30
出席者(外部協力者)	場 所
株式会社ぎょうせい研究員：若松	島田市役所 第三委員会室

(以下、委=委員 長=委員長 事=事務局)

### 協 議 内 容

#### ●島田市子どもの貧困対策推進計画検討委員会

##### <配布資料>

次第

資料1：計画素案1

資料2：計画素案2

##### <議題>

(1) 島田市子どもの貧困対策推進計画（素案）について

#### 1 開会

#### 2 課長あいさつ

・お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。前回の策定委員会は6月25日に開催し、骨子を示させていただきました。その際に、委員の皆様から頂いたご意見を加味して、今回の素案としています。また、8月に第2回策定委員会を開催する予定でしたが、再度、課内で調整を図ることとなり、本日の開催に至りました。その間、担当各課へのヒアリングと内容の精査を行い、本日の素案はその内容を踏まえたものとなっています。今後のスケジュールとしては、本日の委員会で出されたご意見等を含めて内容の調整を図り、11月頃にパブリックコメントの実施、その後、市民の皆様からの意見を基に修正等を行ったものを計画案として

まとめる方向で考えています。

### **3 委員長あいさつ**

- ・皆様こんにちは。お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。これまで、本委員会で様々な資料をご覧いただいていると思いますが、島田市の子どものためにぜひ、ご意見等を頂けたらと思います。よろしくお願いいたします。

### **4 議題**

- ・(1) 島田市子どもの貧困対策推進計画(素案)について、資料1、資料2の内容に沿って事務局より説明

#### **【質疑応答】**

- ・(長) それでは、ご意見をお願いいたします。
- ・(委) よろしいでしょうか。2案出された素案のP66以降についてですが、見比べると随分方向性が変わった印象があります。どのような意図でこの2案としたのかを説明してください。
- ・(事) まず、資料1の構成は、国が示す大綱の項目に基づいて、島田市での課題やニーズ等を整理し、対応する施策をつくり上げました。施策の項目についても、国の大綱をベースとしています。具体的には、教育、生活、就労、経済という分類に分けて整理した内容となっています。一方、資料2の構成は、より島田市独自の課題を把握するために、“子どもの視点”を基に整理し直しています。具体的には、子ども自身の健康や悩み、子どもの家庭や過ごす居場所等、地域や行政の取組、といった子どもを中心としたエリアに区切って整理する方法です。したがって、資料1と資料2の構成は変わり、それぞれ異なる項目にはなっているものの、述べられている内容は、基本的には同じ内容になっています。
- ・(委) そうすると、両資料の内容は、一見、書き方は異なるが、ある程度内容は同じものとなっているという理解でよいでしょうか。
- ・(事) おっしゃるとおりです。
- ・(委) そうしますと、資料1のP66「課題の整理」の「1子どもの貧困に対する周囲の理解の促進」で、「島田市では、深刻な貧困状況にある子どもとその保護者は、地域に関わる機会が少ないため、見つけることが困難で、支援の手を差し伸べることが難しい状況です。一方、経済面で困窮しているかどうかは不明でも、親の教育やしつけ、衛生面上、手をかけていないように見える子どもやネグレクト、虐待を受けている子どもは、服装や態度、精神面の一端から貧困状況を把握できることがあります。」とあり、その上で取組が必要であると書かれています。こうした見つけにくい家庭や子どもに対する視

点というのは、資料2のどこに該当するのでしょうか。

- ・(事) 資料2の「課題の整理」では、そうした部分については大きく内包した形容で記載しています。また、この部分については、事務局内でも協議をしており、その部分については改めて盛り込むよう検討しています。
- ・(委) もう一点、「4 保護者の就労環境の改善」については資料2のどこに該当するのでしょうか。
- ・(事) 「2 子どもがふだん過ごす場所や家庭の充実と改善」の「家庭」に含まれます。具体的な内容は「子どもの放課後の居場所づくりの充実と、生活困難度が高い世帯やひとり親世帯に対する就労支援や…」とあるように、課題として取り上げています。まだ、内容的に説明不足の点もありますので、今後、再検討して補っていきます。
- ・(委) 資料2の方では、やや唐突に就労支援の話が出てくるように感じられ、少し分かりにくいと思われます。
- ・(長) ご覧いただいて分かる通り、資料1では項目ごとに担当課ごとの取組内容が掲載されていましたが、資料2では子どもに焦点を当てて、全体が連帯する形で整理されています。そのため、まとめ方が異なります。担当者の方々からすると見にくいのではないかと思います。いかがでしょうか。
- ・(委) 以前、説明いただいたかもしれませんが、子どもの年齢の表現について、17歳以下という表現は統計的によいのでしょうか。通常は、18歳未満という表現かと思います。もう一つは、後半のページにある各課における施策の展開の中での生活保護に関する部分です。子どもの生活保護受給者は限られていますが、現在、その対象者に対して生活困窮者相談支援事業を実施しています。しかし、本事業の主管課は島田市ではなく社会福祉協議会なので、その表記についてはどのようにするのか考えを教えてください。
- ・(事) まず一つ目の質問についてお答えします。年齢に関する表現について、これまでの委員会での説明はありませんでした。この子どもの貧困対策については、国では、相対的貧困率を始め、国が実施している国民生活基礎調査の結果を踏まえて、一部の課題を導き出しています。この国民生活基礎調査における表現が、17歳以下となっていることから表現を合わせている背景があります。これはあくまで、国の調査の表現ですので、島田市子どもの貧困対策は市の取組であることを考えると、扱いやすい表現に直した方がよいと考えます。
- ・(委) 通常、17歳以下となると高校2年生に該当すると思いますので、違和感があります。
- ・(委) 17歳以下も18歳未満も17歳の誕生日から11か月と364日までの年齢を表

していますので、どちらも同じ意味となります。語感の問題ではないでしょうか。

- ・(事) 表記の仕方については、また、事務局の方で検討して決めさせていただけたらと思いますが、今の話では18歳未満の表記で問題はないと思っています。
- ・(事) 二つ目の質問についてですが、一つ確認させてください。生活困窮者相談支援事業を実際に行っているのは社会福祉協議会ということですが、福祉課としてはどのような関わりを持たれているのでしょうか。
- ・(委) 生活困窮者相談支援事業は、社会福祉協議会に委託しているところです。これは福祉課でよいと思いますが、社会福祉協議会で独自の事業を行っていると思われるので、そのあたりをどう扱っていくかということです。
- ・(委) 社会福祉協議会も様々な事業を行っています。気になるのは、例えば、食料支援事業についてです。資料1では事業の内容を具体的に記載していて、「子どもの夏休みの時期に合わせて食料提供支援を実施しています。」とありますが、これについては、昨年度から今年度、次年度までは実施する予定になっていますが、その先も継続して行うかどうかは不明です。そもそも、実施の主体が社会福祉協議会でも市でもないの、どのように計画に記載するのは検討が必要だと思います。ずっと続けるのかどうか分からない事業ですので、計画書に掲載してよいのかも疑問です。市が主体ではない事業をどこまで掲載するのも整理が必要かと思います。
- ・(委) 市の計画書ですから、他機関との連携くらいは書けるかもしれませんが、実施の有無が明確ではないものについての明言は難しいのではないのでしょうか。改めて、この計画書の位置づけについて教えてください。仮に、この計画が上位の重要な計画で、関連する計画の大元になるものだとすると、市の事業ではないものを掲載する場合は、他機関との連携を図っていくなどの表現にとどめておくべきではないのでしょうか。
- ・(事) 計画の内容は、パブリックコメントを実施する前に、担当各課で確認していただき、細部の各事業やその他の文章についても、掲載する範囲などを検討していただくようにします。また、個人的な意見ですが、市で行っている、あるいは委託している事業でもなく、支援しているだけの事業については、掲載しないというのが一つのラインかと考えます。
- ・(事) また、今回のこうした事業掲載の意図としては、子どもの貧困に関わる具体的な事業や取組というものが少ないことから、市の事業だけでなく市内で行われている取組も掲載する方向で記載しています。しかし、頂いたご意見も踏まえて、記載の仕方については再度、検討していきたいと思っています。
- ・(委) では、資料2に記載する事業等については、現在実施している内容とする方

向でよいでしょうか。文章表現の話になりますが、「具体的な取組」の中で、今後も継続の取組内容として受け取られる可能性があるものもありますので、調整をお願いしたいと思います。

- ・(事) 内容の調整を図ります。
- ・(委) 資料2のP82 施策1「地域の見守り活動等への支援」の「具体的な取組」の中で、初めて民生委員・児童委員が出てきます。これは福祉課と調整してつくられたのでしょうか。新しくここに入れた意図を教えてください。
- ・(事) 地域の見守りには、民生委員・児童委員の協力が不可欠です。そうした背景から、この事業を掲載することとしました。
- ・(委) 原則、民生委員・児童委員は自治会単位で配置されているので、各自治会で見守り活動を行っています。現在、民生委員・児童委員の比率は、女性委員が47%、男性委員が53%で半々程度ですが、いずれも高齢で、特にひとり親家庭の母親や父親とのコミュニケーションは、年齢差もあってなかなか取りづらい状況です。とはいえ、こうした問題については自治会ごとに知恵を絞って取り組んでいます。現在、各自治会の主任児童委員は、1名が男性で、ほか17名が女性という構成で、ある程度の対応は可能かもしれませんが、事業として行うとなると研究の余地があります。
- ・(委) 施策の中身というよりは、構成の話になりますが、資料2のP66から課題の整理があり、その後、基本目標、施策の内容という流れで記載されています。しかし、前段で「課題」が出てきて、また施策の展開のところで「課題」が出てくる、それでよいのでしょうか。
- ・(事) おっしゃるとおり、課題が何度も出てくるのは、少々くどい印象があります。しかし、施策の展開で掲載している施策が、どういう背景や課題があり、それにどう取り組むこととなったのかを具体的に明記することで、読み手に分かりやすく伝わるのではないかと考えました。
- ・(委) 資料1と2を比べると、P67の合い言葉のとおり、視点を変えた内容となっています。多くの計画では、性質上、政策別に分けて記載することが多くある中で、資料2では子どもにフォーカスして、その空間がだんだん広がっていく構成になっています。個人的には市民にも見やすくなっていると思います。また、総合計画や個別計画などとの絡みについては、資料1に記載の施策や事業はシンプルに記載され、内容は具体的な取組でまとめられているので、それはそれでいいと思います。今後としては、この資料1でまとめられた事業を資料として掲載する方向でもよいと思いますがどうでしょうか。
- ・(事) 事務局内で話し合っているところですが、資料編としてまとめる予定でいます。

- ・(委) 先ほど「課題の整理」の内容が冗長だという意見もありましたが、思うにこの箇所のボリュームが多いからではないかと感じたので、それであれば、リード文として2～3行にとどめるようにする形ではどうでしょうか。
- ・(事) ご意見、ありがとうございます。
- ・(委) 日頃、相談支援業務を担っている中で、子どもの貧困について考えると、子どもや親の自己肯定感が低い印象があります。子どもが将来、貧困を抜け出すためには、自己肯定感を高めていく必要があると感じています。資料2では、そうした部分の記載がしっかりあってよいと思いました。親の就労について、親が精神疾患だったり、発達障がいなどで社会への適合が難しく、就労したくてもできない場合も考えられます。また、親が育った家庭がもともと貧困家庭であった場合は、現状が貧困状況であってもあまり気にならないということもあります。こうした家庭では、一見幸せそうに見えるのですが、経済状況はひっ迫している家庭もあるのではないかと考えています。例えば、精神疾患をもっていたり、働きたくても働けないという親への支援についてはどこに該当するのでしょうか。
- ・(事) 資料2、P80の「施策4 保護者の就労・生活支援の充実」の「背景と課題」の中で、正しく「親が精神疾患などで働けずに貧困に陥るケースがある」という団体等ヒアリング調査結果の内容を記載しています。その対応策として、自立へ向けたサポート体制の充実を図るといふことの重要性を記載しています。
- ・(委) 具体的にはどのような取組になりますか。
- ・(事) 「具体的な取組」の「(1) 経済的な支援の充実」にある「自立相談支援事業」が該当すると考えていますが、そのほかにも有効な取組が考えられるようでしたらご意見をお願いします。
- ・(委) 福祉系ですと、精神保健相談が有効だと思います。
- ・(長) 正に今のご意見のとおり、資料2での子どもの将来につながっていくところを切らないという視点であればこそ、このような構成になると思います。特に自己肯定感については、それが低いと貧困の連鎖が起こる可能性が出てきてしまいます。資料2は、それを断ち切りたい、子育てに希望を見いだす、といった内容になっています。そういったところを考えると、各課の縦割りで切るのではなく、切れ目ない地域連携や関係機関の連携が重要であると感じています。
- ・(委) 内容は問題ありませんが、資料2のP70～75にかけて、「子どものこころの健康づくりの推進」とあり、ここで相談支援体制や組織の構築の重要性について記載があります。しかし、P75の「背景と課題」には、島田市の教育の施

策の大要における基本方針の一つとして、「豊かな心を育てる」があり「自然体験や福祉体験、文化体験などとともに、人に役立つ活動を推進することで…」と続き、これは、協働体験やレジリエンスを養ったり心の育成を図るものとしています。学校教育課としては、子どもの心の健康づくりというのは、どちらかという相関機関の充実よりも、こうした体験活動を通じた心の健康づくりを重要視しているという認識があります。と考えると、施策1「子どものこころの健康づくりの推進」の具体的な取組についての内容が施策4に示されている内容ではないかと思います。逆に、施策1の「施策の方向性」に「子どもが身近に相談しやすい環境と体制の充実を図り…」とあるので、その「子どもが身近に相談しやすい環境と体制の充実」を施策1のタイトルにすればよいのかなと思います。そして、施策4のタイトルを「子どものこころの健康づくりの推進」としてもよいのかなと思いました。様々な体験を個別に書き出すことに違和感はありますが、内容的にはそこまで大きく変更ありません。施策1と施策4の内容の絡め方をもう少し検討いただけたらと思います。

- ・(長) その意見に関連しまして、「施策1子どものこころの健康づくりの推進」と「施策2子どものからだの健康づくりの推進」のように、心と身体を別々に取り上げるのもよくないのではないかと思います。心と身体は一緒に成長していくものです。区切りから見ると、学校、妊婦、子育てで分けているので、その部分を検討する余地があるように思います。
- ・(事) 心の健康の部分で、ご指摘のとおり相談支援にフォーカスしすぎているところがあると感じました。また、委員長のご意見のとおり、心と身体の成長は切っても切り離せないということもあり、施策の内容を「こころとからだの健康づくり」として、相談支援を書き出す方向で検討します。また、様々な体験学習を通じた心の成長については、「こころとからだの健康づくり」に含めていく方向で検討します。
- ・(委) 資料1では、一番始めに「学校教育」についての施策が掲げられており、「学力の保障」とありました。これは貧困の連鎖を防止するために、学校教育の重要性という観点で位置づけられていると思います。しかし、資料2では施策の内容が大きく見直されていて、学校教育についての内容は、施策3に移行しています。これは、幼児教育からの体系的な順番に沿っての施策の掲載であると理解していますが、その中で確かな学力としての意欲、判断力、表現力というところの向上が貧困の連鎖を防ぐためには必要で、学校教育の重要性が求められるところだと思います。その点については、改めて考えていただきたいと思います。もう一点、施策1にある「学校における相談支援」という部分についてです。学校が窓口となって、子どもたちの気になるところを早期発見して、関連機関につなげるというところは十分に理解しているところです。しかし、「学校における」という表現だと、学校という場所とし

て捉えられてしまうような気がしています。資料1のP75②では、「学校を窓口とした福祉関連機関等との連携」という表現になっていましたので、その方が近いのではないかと思います。

- ・(委) 子育て支援ネットワークの視点で見ましても、子どもの視点に立ってという観点はとてもよいと感じています。支援ネットワークとしても子どもを中心として活動している団体が多い中で、大綱項目で分けるよりも、子ども視点で分ける方がより分かりやすいと感じました。今月の「ひろば」という冊子の中で、主任児童委員の「ひとり親家庭の現状と支援について」という内容の掲載があり、貧困だった家庭の子どもの感想がありました。「寒いのもお腹が空くのも辛かったけれど、一番辛かったのは、お母さんと自分を見る大人の眼差しだった。」ということです。こうした取組を市で行っているということを市民の方々に知っていただくことと、地域連携も含め民生委員・児童委員以外にも活動している様々な団体等と連携を取って、ひとり親家庭への理解の促進を図ることとが必要ではないかと感じました。
- ・(長) インフォーマルな関わりというのは非常に重要であると思います。長い時間関わる関係性というのは大事な役割だと思います。
- ・(副) 様々な意見を頂きありがとうございました。実は資料1は以前からあったものですが、資料2については本日、業者の方から頂きました。中身については細かく見てはいませんが、大枠については、先月、業者の方に各課のヒアリングを行っていただき、そこから島田型でよいスタイルはこれだと思いうという提案を頂きました。委員長からもありましたが、課で切るよりも中身で切る方が、「子ども」である、「家族」である、「地域」である括りとして見やすいかなと思います。文言の問題はありますので精査をしますが、内容がよろしければ計画素案の内容を資料2にシフトしていきたいと思います。一点、気になるところがあります。P67に「合い言葉」ということで「子どもの視点に立って」という文言があります。平成26年度に策定した子ども・子育て支援事業計画では「子どもを真ん中に」というテーマがあったと思います。この計画でも子どもがテーマになりますので、子どもの視点というのも子どもの立場に立つという意味で、同じ意味合いになると思っています。また、子どもを真ん中というテーマも、子どもを中心にみんなで考えて、守っていこうという話し合いの中で決まったものだと思います。市長の言葉でもありますので、子どもの視点に立ってという言葉もよいとは思いますが、ここは「子どもを真ん中に」という合い言葉ではいかがでしょうか。ご意見を頂けたらと思います。
- ・(長) いかがでしょうか。
- ・(委) : 子どもの視点に立ってという言葉は綺麗でよい言葉だと思います。ただし、この計画について、すべてが子どもの視点に立った内容になっているかとい

うと、どうしても出来上がっていないと思います。例えば、P80 の保護者の就労支援などは、子どもの視点に立って書くことは難しいと思います。そうした意味で、子どもを中心に考えて計画をつくっていくとした方が綺麗なかなと思います。また、前回の策定委員会で、子どもの貧困というのは、経済的な面だけではないというお話があったと思います。例えば、生活の支援や居場所づくりに関しては、反映されているように感じますが、子どもの視点に立ってという考え方で見た場合には、より具体的に子どもが自分の置かれている状況の中で穴が空いているところはどういうところなのかを提示した上で、それをどういう方法で埋めていくのか、という支援も必要なのではないかと思います。具体的などころまで実施しないのであれば、子どもの視点に立ってという考え方はしない方がいいのではないのでしょうか。

- ・(長) では、「子どもを真ん中に」という合い言葉でいかがでしょうか。

#### ○全員、賛同

- ・(長) ありがとうございます。調査結果は数値ですので、心の問題というところまでは分からないと思っています。自己肯定感は最初の段階の愛着形成から始まっています。そう考えると、妊婦の段階からの対応が必要であると思っています。
- ・(委) 私のこだわりでもあるもので、ぜひ、「課題の整理」や「背景と課題」では、見つけにくい人たちをどのようにして見つけ、支援につなげていくのかという部分を課題として正面から捉える内容にしていきたいと思っています。
- ・(長) 島田市であればそれができるのではないかと思います。
- ・(長) そのほかに何かあればお願いします。誤字脱字や表現についてもご意見があればお願いします。なければ、そのほかについてお願いします。
- ・(事) 本来、8月に資料を提示して策定委員会を開催する予定が遅れてしまったこと、さらに、本日の午前中に新しい資料を提出することになってしまったことは、既に提出している素案よりも本当によいものを何とかつくりたいという業者の方の熱意があつてのことと思います。委員の皆様には事前に資料を送付できなかったことは大変申し訳なくお詫び申しあげますが、その点をご理解いただけたらと思います。また、様々なご意見を頂きありがとうございました。本日頂いたご意見を基に内容を調整し、10月中に資料を作成して再度、皆様にご確認いただいた後、冒頭でもお話ししたように11月頃にパブリックコメントを開催したいと考えています。その後、1月末には皆様の最終確認をいただき、2月に計画として完成させたいと考えていますので、今後ともよろしくお願いたします。
- ・(長) 福祉大学では、いろいろ障がいをもっていたりする子どももいます。見てい

るといろいろな子どもがいるのですが、この大学の4年間で社会に出る最後の砦です。ですので、どうか4年間でいろいろ身に付けてもらいたいと思っています。しかし、どう見ても幼少期にモノを落としてしまったんだと感じる学生もいます。どうかしたいと思っていますが、社会に出ても適応できなかつたり、活躍できなかつたりする子どももいます。そうした子どもを見ると本当に辛いです。今回、貧困の計画の話を受けたときに、そうしたところが分かればと思いましたが、やはり同じようなところが見えてきました。島田市から来ている学生は島田市で就職しますので、活躍できる自己肯定感を持った社会人を育てていきたいと考えています。ぜひ、その前の段階の整備をお願いします。本日は長い時間、ありがとうございました。

●閉会

以上